



アジア研修
センター屋
上から臨む
初日の出

新年明けましておめでとうございます。2021年の新年はレジデンストラックでの実習生の来日再開以来の来日ラッシュのおかげで、例年以上に活気に満ちた年明けとなりました。まだまだ出口が見えない新型コロナウイルスとの闘いの中、コロナ前を羨むのではなく、この現状下で最善のことを模索していく1年間にしていきたいとの思いで、日本語講師・スタッフ一同、新年をスタートさせて頂きました。

実習生の皆さんは、新型コロナウイルスの感染再拡大の中での来日、また、来日直後の14日間は、孤独な待機生活を強いられているので、皆さん不安を抱えての来日となっています。それでも、14日間の待機期間を終了し、対面での日本語クラスがスタートすると、これまでの鬱憤を晴らすかのように明るい笑顔で、元気に日本語学習に取り組んでいます。

あじけんスコープ Vol.93 ～新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み～



手の洗い方を指導する当校生活指導員（中国人担当）の松山先生

当校では、14日間の待機期間終了後に行われている生活指導で、新型コロナウイルス感染再拡大を受けて、手指の洗浄・消毒の習慣化への取り組みをこれまで以上に強化しています。

手指の洗浄・消毒は、飛沫の拡散防止、三密回避とともに感染防止のために、是非とも実習生の皆さんに身に付けてもらいたいコロナ禍での基本的な生活習慣と言えます。また、実習生の中には、手を拭くための、ハンカチやハンドタオルを携帯する習慣を身に付けることも呼び掛けています。

今月の実習生 ～番外編～



今月は、番外編として、エンジニアの在留資格で来日し、就業前に日本語コミュニケーション力のブラッシュアップの為に、当校の日本語講座を受講した HEIN THU（ヘイントウ）さんを紹介いたします。

来日当初は日本語を話すことに不慣れで、日常的な会話にも苦戦していましたが、基礎がしっかりしている上に、真面目で、積極的な性格なので、クラスメイトともすぐに打ち解け、みるみる会話力を上げていきました。

私はヘイントウともうします。シンナーからエンジニアとして来日した先月の11日に始めてこのきぼう学院で1ヶ月くらい勉強していました。ここでは日本語だけでなく文化とかお礼とかいろいろな大切なものを教えてもらったので社会人になるときはかならずやくにたつとおもいます。本当にありがとうございます。これから目標をしっかりと決めてがんばりたいです。

あじけん流日本語授業

～ 「リモート授業」 その2 ～

今月のあじけん流日本語授業も、当校で行っている「リモート授業」についてご紹介いたします。

14日間の待機期間中は、教室に集まって授業が行えないため、日本語の授業も待機期間中は、リモートで行わざるをえません。リモート授業では、リモートならではの授業も可能ですが、対面授業にはない、「マイナス面」も最近わかってきました。今回は、実習生のインタビューからわかった、リモート授業のマイナス面をお伝えいたします。

リモート授業では、「電波の状況」が大切なのですが、時々状況が悪くなることがあります（写真1）。そうすると、授業も途切れ途切れになり、集中が切れてしまうようです。また、部屋の中で「1人」で受講しているため、本人の意識が強くないと、気持ちを持ち続けることが難しいそうです（写真2）。その他、画面も携帯電話だと小さいので、クラスメイトの顔がはっきり見えなくて寂しい、早く会いたいと思ったそうです（写真3、4）。講師もさることながら、実習生もリモート授業では、苦勞しているようでした。今後も授業内容を工夫し、対面で会える日を楽しみに、リモート授業を乗り越えていきたいと思います。

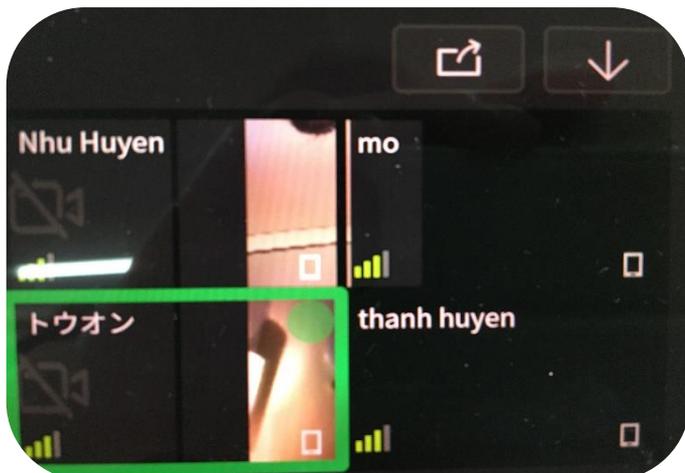


写真1：電波が悪いと顔も見えなくなってしまいます



写真2：集中力が切れてしまうことがあります



写真3：一緒に来日した実習生とも離れ離れでさみしいと言っていました



写真4：ひとりひとりの顔が小さくなります